

成均館大学 東アジア古典学 学術会議

東アジアの漢文学、固有性と共同性

— 東アジア古典学の可能性と難関

1. 日時：2012年11月23日（金）－24日（土） 10：30～18：30

2. 場所：成均館大学 国際館 9B217号（最大200名受容可能）

3. 主催：G10 21世紀グローバル・スカラーシップ育成事業団、成均館・吉林・岡山大学 CAMPUS

ASIA 事業団、成均館大学 漢文古典翻訳協同課程、国語国文学科、漢文学科

4. 後援：成均館大学 GT10 事業（産学協力団）、教育科学技術部、成均館・吉林・岡山大学

CAMPUS ASIA 事業団

5. 主旨：

ここ数十年にわたって東アジアにおいては「東アジア的な視角の樹立」というテーマの下で活発な学問活動を行い、多くの成果を収めましたけれども、と同時に、国家という単位を越えるということが如何に難しいことなのかを痛烈に思い知りました。

こうした状況において「漢文学」は、他のいかなる分野よりも「東アジア的な視角」の樹立に有利であるということが私たちの判断です。周知の通り、韓国、日本、中国、ベトナムなど、東アジアにおける人々は、主に「漢文」を通して高度の思惟と芸術的な表現を直接的に疎通してきたし、漢文と民族語との創造的な交渉を通して各地域の独特な言語生活を発展してきました。従って「漢文学」という媒体を通すことになると、国家単位を越えて「東アジア」という次元に立って、東アジア言語生活の共通性と違いを新しく認識できるのではないかと期待します。又こうした研究の成果を、キャンパス・アジアの教育プログラムに適用することになると、東アジアの現案をより深く理解する人材の養成にも大いに役立つでしょう。

どうぞ沢山のご関心と協力など、お願い致します。

6. 準備委員会：

鄭雨澤（国語国文学科長）、安大會（漢文古典翻訳協同課程）、

金龍泰（漢文学科長）、黃鎬德（比較文化研究所長）

東アジアの漢文学、固有性と共同性

一 東アジア古典学の可能性と難関

1. 日時：2012年11月23日（金）－24日（土）10：30～18：30
2. 場所：成均館大学 国際館 9B217号（最大200名受容可能）
3. 主催：G10 21世紀グローバル・スカラーシップ育成事業団、成均館・吉林・岡山大学CAMPUS ASIA事業団、成均館大学 漢文古典翻訳協同課程、国語国文学科、漢文学科
4. 後援：成均館大学GT10事業（産学協力団）、教育科学技術部、成均館・吉林・岡山大学CAMPUS ASIA事業団

| | | | |
|-------------|------|-----|----------------|
| 10:00-10:15 | 受け付け | | |
| 10:15-10:30 | 開会式 | ご挨拶 | 李熙穆（成均館大学漢文学科） |

《第一日目 細部日程》

| 第一部：東アジア古典学と漢文 | | | | 司会: 黄鎬德（成均館大） |
|-----------------|------|---------------|----------------------------------|---------------|
| 時間 | 区分 | 発表者 | 発表題目 | |
| 10:30-11:10 | 発表 1 | 陳在敦 （成均館大） | 漢文学研究と東アジア | |
| 11:10-11:50 | 発表 2 | 劉徳斌 （吉林大学） | 中国の“新漢学”項目と東アジア人文と社会科学の交流と合作について | |
| 11:50-12:30 | 発表 3 | 土屋聡 （岡山大学） | 六朝時代の漢字文化－「萬」「万」字を中心として－ | |
| 12:30-13:30 | 昼食 | | | |
| 第二部：文語文、共同性について | | | | 司会: 金明錫（成均館大） |
| 時間 | 区分 | 発表者 | 発表題目 | |

| | | | |
|-------------|--|----------------|---|
| 13:30-14:10 | 発表 4 | 権仁瀚 (成均館大) | 漢文語法の選択的な受容と変容 —韓・日の初期木簡の例を中心に— |
| 14:10-14:50 | 発表 5 | 沈文凡 (吉林大学) | 唐代における牡丹文化と文学の伝播 —韓国以南義采の『龜磻詩話』受容史の展開を重ねて— |
| 14:50-15:00 | 休憩 | | |
| 15:00-15:40 | 発表 6 | 道坂昭廣 (京都大学) | 日本漢文学における初唐文学の影響についての初歩的検討 —『懷風藻』と『本朝文粹』の詩序から— |
| 15:40-16:00 | 休憩 | | |
| 16:00-18:00 | 第一日目 主題討論 総合討論 司会: 安大會 (成均館大) 討論者: 沈慶昊 (高麗大), 金永鎮 (成均館大) | | |

※発表 2 の劉徳斌氏は事情あって不参加。

《第二日目 細部日程》

| 第三部：東アジア古典批評と共同性 司会：金鎮均 (成均館大) | | | |
|--------------------------------|------|----------------|---------------------------|
| 時間 | 区分 | 発表者 | 発表題目 |
| 10:40-11:20 | 発表 1 | 斎藤希史 (東京大学) | 霍公鳥と玉匣—漢籍流通圏文学の成立として— |
| 11:20-11:50 | 発表 2 | 徐徹源 (成均館大) | 日中韓の古代説話に表れる異類交流と愛慾の意味 |
| 11:50-12:30 | 発表 3 | 下定雅弘 (岡山大学) | 中国の知識人にとっての善—六朝・唐の詩人を中心に— |
| 12:30-13:30 | 昼食 | | |

| 第四部：東アジア漢文学, それぞれの固有たる共同性 司会：李ジハ(成均館大) | | | |
|--|--|----------------|----------------------|
| 時間 | 区分 | 発表者 | 発表題目 |
| 13:30-14:10 | 発表 4 | 韓梅 (山東大学) | 『入藩記』の清人イメージに関する考察 |
| 14:10-14:50 | 発表 5 | 金龍泰 (成均館大学) | 開港以後東アジア漢文ネットワークについて |
| 14:50-15:00 | 休憩 | | |
| 15:00- 17:00 | 15:00-17:00 第二日目 主題討論 司会: 陳在教(成均館大) 韓榮奎(成均館大)、金卿東(成均館大学)他 | | |

■ 通訳及び翻訳

1. 通訳

- ① 韓日-日韓 南相旭(成均館大)
 朴利鎮(ソウル大)
 金ジョンヒ(誠信女子大)
- ② 韓中-中韓 金東建(成均館大)
 高ヨンヒ(成均館大)

2. 発表原稿翻訳

- ① 韓日-日韓 柳忠熙(東京大)
 金ジョンヒ(誠信女子大)
 裴寛文(韓国外大)
 南相旭(成均館大)
- ② 韓中-中韓 金東建(成均館大)
 吉林大の大学院生 3人